

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あさがお)

事業所番号	0671200236		
法人名	東北医療福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーさがえ		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字小和田41-5		
自己評価作成日	令和 3年 7月 1日	開設年月日	平成 16年 8月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地にあり、静かな環境の中で生活できている。季節の行事を多く取り入れ、笹巻きやぼた餅、よもぎ餅、豆腐田楽などを一緒に作り昔を思い出しながら食べる機会を設けている。また、畑で収穫した里芋を使って家族や地域の皆さんを招待し地域交流芋煮会を開催しているが、コロナのため実施できていない。日中は、活動的に過ごしていただけるよう、毎日の体操やレク活動を行い、ドライブ、散歩等に出掛ける機会を持ち「その一瞬の喜び・楽しみを大切に」を胸に刻み、ご利用者様の笑顔をたくさん引き出せるような支援を心がけている。また、看護師の配置や、希望に応じた訪問診療も行っているため、健康面においても安心して過ごすことができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設以来17年となり、長期間入所している利用者は年齢を重ねる毎に身体機能が低下し、介護度も高くなり職員の介護負担が増してきている。このような中、新型コロナウイルス感染症対応のため、念入りな換気・手洗い・うがい・消毒の励行、面会は家族2名以内短時間、更に外出制限など、利用者にとってはストレスが溜まり、介護にあたる職員も、自身の感染防止と利用者の安全確保に日々細心の注意を払い、疲弊している姿を表に出すこともなく、使命感をもって笑顔で利用者へ寄り添っている。職員は、毎年、外部評価項目に沿って自己評価を行い、管理者が点検し、現状確認と振り返りを行いながら自己啓発に結び付けられるような取り組みをしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オールインワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 3年 8月 20日	評価結果決定日	令和 3年 8月 30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時の研修にてホームの理念等についての学習をしている。玄関前や日誌のファイルなど目の留まる場所に掲示したり、ユニット会議の際は職員全員で理念唱和をし意識付けを行っている。意識を深めることで役割を考えながら質の向上に努めている。	理念は玄関や事務室に掲示し常に意識できるようにしている。理念を基に、それぞれのユニットが全職員で話し合いユニット目標に「利用者の思いを引き出し支援につなげていく」ことを掲げ、実践につなげている。さらに個人目標を定め取り組むことも検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、買い物やドライブ、理容室の利用、散歩等に積極的に出掛け、地元の方との交流を持てるよう努めている。ご近所の方との挨拶、訪問や来所などを通して日常的に交流を図っている。しかし、町内会の様々な行事や催し物にはなかなか参加できていない。今年は、昨年同様新型コロナウイルス感染予防の為、積極的な外出はできていない。	事業所は新興住宅地に立地し、町内会に入会し広報誌を回覧板に挟んでもらうなど交流し、また近所から野菜の差し入れがあるなど、日常的に気軽な付き合いもしている。例年、見学・参加しているお祭りや文化祭などの行事、ボランティアの訪問は、今年はコロナ禍のため中止されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の広報誌や運営推進会議にて日常生活の様子や支援方法を伝えている。又、ホームの芋煮会に地域の方より参加していただき、認知症の理解を深めていただけるように努めていたが、昨年度はコロナの為、地域の方との交流は持てなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開き、構成員からの意見や要望など取り入れながら事業所の活動に活かしている。今年は状況に応じて文書での報告が多かった。	町内会長、民生委員、ボランティア代表、家族会代表、市職員などが委員となり2か月に1回開催している。今年はコロナ禍のため書面での開催となったため、事業所の様子、課題、事故事例などの要点をまとめて添付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催する連絡会へ参加するなどして事業所の活動を理解してもらえるように取り組んでいる。昨年は、避難確保計画の研修会に参加し、防災情報の活用法を学んでいる。	避難確保計画の作成、コロナ対応、ワクチン接種などの情報について連携している。今後はリモート会議の環境を整備する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人として身体拘束は禁止しており、職員も理解している。又、身体拘束廃止委員会を中心に、事例などについて話し合う機会を設けている。日中は施錠せず開放し、自由に外へ出入りできるようにしている。外に出たがる方については、入居者様本人の思いを尊重し気持ちに寄り添う等の支援を行っている。また、学習の場を設け今後も入居者様の尊厳を遵守していく。	身体拘束に関する指針を定め、定期的に学習会を開催している。また「身体拘束廃止委員会」を「身体拘束適正化委員会」として位置づけ、事例を中心に話し合いグレーゾーンの解釈や取り扱いについて共有し身体拘束をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議の時にコンプライアンスルールを読み上げたり、疑問が起こった時は皆で話し合い、虐待防止に努めている。また、ユニット会議にて虐待の勉強会を行い、知識を共有している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で利用している方もいらっしゃらない為、知識不足であるが、研修会参加後の報告会や資料配布を行い、全職員が学ぶことができるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間をとって説明している。また、重度化や看取りについての対応やホームでの生活を送る上で起こりうる事柄などについても説明している。退居時には家族の不安もあることから、十分に話し合いを行い、関係機関との連携を図りながら対応している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、年1回の総会や行事へ参加していただく機会を設けている。意見箱を設けたり、常に話しやすい雰囲気作りをしているが、意見箱の利用は活用できていない。面会時などに状況を報告し、意見があった際には早急に対応して返事をするよう努めている。今年度は昨年同様、書面での家族会になっている。また、面会も制限付きになっている。	家族会があり、総会や行事参加を通じて交流し、意見や要望を聞く機会としているが、コロナ禍のため昨年と今年は書面での開催となった。また家族の面会は同一家族2人まで15分に制限しているため、意見や要望は聞き逃さず全員で共有し対応している。毎月、家族あて送信する手書きのお便りは写真を入れ、なるべく細かに様子をお知らせするように努めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議を行い、その中で意見を聞きながら活動に活かしている。又、日常業務においても、個人の意見を聞き活かしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や日々の会話の中で職員の希望などを聞くようにしている。また、研修や学習会の資料を貼り出し、職員の技術の向上に努め、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナのため、外部での研修には参加できていないが、ホーム内で月1回職員が講師を務め、勉強会を行っており、スタッフ全員で質の向上が図れるようにしている。	外部研修の企画も少なく、参加はできなかったが、事業所内での勉強会を毎月開催し、職員が講師を務め、相互に質の向上に取り組んでいる。職員がそれぞれ個人目標を掲げ取り組みを評価しながら高め合う機会も検討している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの為、市や県の研修会、他事業所との交換研修等への参加はできていない。	県グループホーム連絡協議会に加盟し、交換研修などにも取り組んだ経験がある。同法人内には4つのGHがあり、毎月会議があったが、現在は対面の会議はなく、電話やメールで情報交換をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に本人の意見や思いを聞くと共に、ご家族様からの意見も参考にしながら受け止めるようにしている。また、入居後には本人との信頼関係を築けるように日々関わりの中で本人の意見や思いを聞くようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面談時に、ご本人の生活歴や性格、習慣などを含めこれまでの家族の思いや体験、それによって困っている事や要望等、じっくりと聞き取りその情報を基に職員が家族と本人の関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様が何に困り、何を必要としているのか、何を求めているのかを見極め、希望に添ったケアができるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまで培ってきた一人ひとりの経験、知識を活かし利用者の希望や思いを出来るだけ実現できるように支援している。一方的なケアにならないよう出来ること、出来ないことを把握しながら生活の場で活用できるよう支援している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やお便り等で日々の様子を伝えている。入居後任せきりの状態にならぬようご家族と連絡を密にし、本人と家族との関係性を理解しながら共に支援していくよう努めている。コロナがなければ行事への参加を呼びかけ、一緒に活動する機会を持ち協力しながら利用者様を支える関係を築いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に年賀状を送ったりしている。また、馴染み深い話は繰り返しになっても、何度も新鮮に聞くようにしている。コロナのため、ご家族様との交流が今までのようにできない分、別の方法がないか検討している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家具の配置やソファの位置を変えたり、必要に応じて席替えを行い、利用者様どおしが気軽に話し合えるような環境作りに努めている。トラブルが未然に防げるよう見守り、トラブルが生じる前にスタッフが介入できるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係性を保てるよう、入居時からの信頼性と良い関係を築けるよう取り組んで行く。必要に応じて、相談や他事業所へ連絡をしたり、お亡くなりになった方の告別式に参列しており、退居後、ご家族様が訪ねて来られることもある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話の中から、本人の希望や意向を把握したり、話しやすいようにし、その人らしく暮らし続けられるよう支援している。また、意向を伝えるのが困難な方に対しては、日々の関わりの中やミーティング等で本人の立場に立って意見を出し検討したり、ご家族の意見もお聞きしている。	アセスメントの際に「本人の出来ることできないことシート」に詳細に記載している。「思いを引き出す支援」をユニット目標にも掲げ、日々の会話や入浴時の会話などを通して、思いを引き出す努力を全員で取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用申請時に生活歴等を記入していただき、また、ご家族様や、これまで関わってこられたケアマネや相談員から様々な情報をいただき参考にし、これまでの生活に近づけるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人一人の過ごし方を総合的に把握している。利用者様一人一人に応じた対応で出来る事、出来ないことを見極め、記録に残すことで職員間の情報を共有し、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞く機会を持ち、職員全員の意見や考えをプランに反映している。ユニット会議で現状や気になる点などを話し合い、本人がより良い生活ができるようにプランを作成している。	目標達成計画に掲げ、本人・家族スタッフ全員で話し合い共有できる介護計画作成を目指したが、対面での話し合いの機会ができず、その実現に向け引き続き取り組む意向である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、状態の変化や気づいたことは連絡ノートを活用し職員で共有し必要に応じてプランの見直しを行っている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オムツ券を利用されている方がおられる。また、今年はボランティアの受入れを中止しているが、いつもは傾聴ボランティア、個人ボランティアが来所され、談笑されたり、レクリエーションを行ったりしている。町内会の方からの草刈りなど地域のボランティアにも協力していただいている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望する医療機関の受診を行っている。定期的な受診や往診により医師との連携を図り、急変や体調不良の際には常に対応できるように体制作りができています。	常勤の看護師が配置されているので受診支援は看護師が対応し、家族、かかりつけ医との連携が円滑に行われている。また往診対応も行われている	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置し、常に介護員と連携を取りながら日常生活の問題点を職員の工夫で解決するか、医療につなげるか確認している。また、受診の際の医師との連携、家族への連絡を行い個々の利用者にあった受診や看護が受けられるように支援している。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、家族、医療機関と連携をとり情報交換や相談等の対応を行い、早期に退院できるように努めている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時における対応に係わる指針と看取りに係る指針を作成し、家族に説明し同意を得ている。体調の変化や入院時には、段階に応じて家族、医療機関と話し合って今後の方針を決めるようにしている。なかなか、方針が決まらないような状況にあっても、ご家族の気持ちに寄り添うようにしている。	重度化した時における対応指針と看取りに係る指針を作成し、家族に説明し同意を得ている。看取りにも対応している。今年はコロナ禍のため看取り期に家族の同室泊まり込みができず、職員も家族も辛い思いを経験した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアル、救急搬送時の情報提供書を作成、定期的に見直し、常に手の届く場所に置いている。また、入職時の研修で学ぶと共にユニット会議で確認する機会を設けている。また、緊急救命の講習会なども実施し、実践力も身につけている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署立ち会いの基避難訓練を行っている。又、出火場所や時間帯など様々な方面での訓練を行うようにしている。地域との協力体制は不十分である。又不定期で地震訓練や水害の垂直避難訓練も行っている。災害時の献立を3日分準備し、炊き出し訓練ではアイラップでご飯を炊いたり実践力をつけている。災害準備品を整え、リネン類も使いやすいように配置している。	災害時の具体的な取り組みについて実技を通し実践力を培っている。ハザードマップを確認し、避難確保計画を作製した。地域との協力については目標達成計画に掲げたが、対面による運営推進会議の開催が叶わず、持ち越しとなった。引き続き取り組む計画である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット会議時、コンプライアンスルールの読み上げを通じ、基本理念を念頭に入れ、職員全員が共通の認識で尊厳と権利を守るようにしている。一人一人の性格や生活歴、認知症の症状を理解し、人生の大先輩としてその人の生き方を尊重し、それぞれに合わせた声かけや対応を行っている。	コンプライアンスルールを基に、ユニット毎に職員全員で取り組んでいる。人生の大先輩として敬い、生き方を尊重しながら、プライバシーや誇りを損ねない声かけや対応をしている。ふさわしくない声かけがあった場合は職員同士で話し合っている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何気ない会話の中にも自己決定できる場面を作り、気持ちを自由に表現できるような環境作りに努めている。表現や自己決定が困難な方には自己決定できるような問いかけを行ったり仕草で自己決定されている場面も見られる。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が思い通りに生活できるよう、本人のペースに合わせた支援を行っている。希望に添えるようにコミュニケーションを図りながら利用者の思いをくみ取っている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナの為、本人の希望を確認しながらホーム内で職員が散髪を行っている。身だしなみなど、不十分などことがあれば、さりげなく声かけを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や誕生日などは希望のメニューを取り入れている。ミキサー食の方でも、盛り付けを工夫し、目で楽しみ美味しく食べていただけるようにしている。	昼食は、利用者の希望を聞きながら職員が献立を立て、法人の栄養士から点検・アドバイスを受けている。食材は近所の店から配達してもらい、手作りをしている。夕食は献立付き食材の宅配を利用している。ぼた餅や誕生日など利用者が参加しての行事食は楽しみの一つである。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士より献立のチェックや指導、助言を仰いでいる。利用者一人一人の食事チェック表を作り、食事量、水分量を把握し、変化がある時には早期に発見できるように取り組んでいる。又、訪問診療時、主治医に食事量を報告し対応している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に個々にあった声かけや見守りを行い、歯磨きをし義歯の方は義歯を外し義歯洗浄剤で消毒をしている。定期的に歯科検診を行い、必要に応じて訪問歯科へ依頼し対応している。又、嚥下体操を行い舌苔がつきにくくなるよう努力している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンシートを活用し利用者様個々の排泄パターンを把握しながら声かけを行っている。トイレで座って排泄することを大切に、日中、夜間のリハパンやパットを使い分け、自立につなげている。	排泄チェック表を活用し、個人毎のパターンを把握し、適時の誘導や介助をしている。便座での排泄を基本にして、リハパンやパットの使い分けを行い排泄の自立に向けた支援をしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量を把握し水分不足にならないよう対応している。また、朝の牛乳や乳製品などを取り入れたり、散歩や軽体操などを実施して便秘の予防に努め、必要時には主治医の指示を仰ぎ服薬コントロールも行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	自ら入浴を希望される方がおらず、声かけにて入浴していただいている。季節の行事(ゆず湯・菖蒲湯)などを取り入れながら、ゆっくり入浴できるよう努めている。又、立位困難な方に関しては、シャワー椅子を利用したり職員2名で対応するようにしている。	週2回は入浴できるよう支援している。体調や身体機能に併せ、2人介助やシャワー椅子利用などでの対応もしている。季節の行事に合わせて、ゆず湯やしょうぶ湯などを取り入れながら入浴を楽しむことができるような取り組みもしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を理解し、個々に応じ休息がとれるよう声かけを行っている。また、ベット周りの温度、湿度測定を行い快適な温度で安眠できるようにしている。又、照明などにも配慮している。又、処置や運動を行う際は休憩時間にあたらぬよう配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更等があるときは、変更になった理由等その都度看護師より説明を受け、薬の作用、副作用についても学んでいる。症状の変化があれば看護師へ報告を行っている。薬のセットミスや誤薬がないよう、服薬事のダブルチェックを徹底している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やこれまで日常生活の中で培ってきた得意な事、趣味などを把握しは継続できるようケアプランに取り入れ対応している。(手芸・家事・掃除、レクリエーションなど)			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などにお誘いし、居室にこもることのないよう外出の機会を設けるようにしている。普段行けない場所へ、家族や地域の方と協力して出掛けることはなかなかできていない。又、今年はコロナウイルスの為入込みへの外出は避け、密にならないよう車の配置も配慮し、外出先での飲食も禁止している。	普段は行けないような場所や本人の希望するところへの外出はコロナ禍のため制限しているが、近隣の散歩や、自家菜園での野菜づくり・草むしり、玄関前のベンチでの語らいなど、できるだけ外気に触れる機会を創出している。車で出かけた際は車窓からの眺めを楽しむようにしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を手元に置くことで安心感をえられている方もおられるが、買い物等で自分で支払うことが困難になってきている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に添い、家族への電話や手紙のやりとりの支援を行っている。また、年賀状を出しており、ご家族や遠方のご家族様に喜んでもらっている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の動きで出る音(足音、台所でも食器音、話し声等)が不快にならないよう注意している。ホームの庭先に咲いている花を飾ったり、季節にあった装飾をしたり、手作りカレンダーで飾り付けするなどし、利用者様にとって心地よいスペースになるよう工夫している。各居室とリビングに温度計を設置し、一日3回計測し、常に快適な空間で生活できるよう配慮している。	居間などの共用空間は、温度、湿度を調節しながら4時間ごとに換気している。正月・節句・七夕など年間行事にはそれぞれの飾りつけをしたり、季節の花を活けたりしながら季節感を味わっている。また利用者が制作し文化祭に出品した作品を展示している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースがあり、談笑したり新聞を読んだり、テレビを見たり思い思いにゆったりと過ごせる環境を作っている。又、廊下やリビングの窓側に椅子を置き、いつでも座って外を眺められるような空間作ったり、一人で過ごす事ができる空間も作っている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものや使い慣れたものを持参していただき、配置等は、本人ご家族と相談し配置する事で自宅での生活に近い環境を整え居心地の良い居室を提供できるよう努めている。また、ご家族様との写真や職員からの誕生日の御祝メッセージを飾ったりしている。	使い慣れたものや馴染みの物を持ち込むことができ、家族写真や記念のメッセージカードなどを飾り、自分らしく居心地よい部屋づくりをしている。本人の意向でテレビや冷蔵庫を持ち込んでいる人もいる。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを利用して日常生活動作ができるようになっている。また、大きな手作りカレンダーや時計を2つ配置したり、トイレが分かるよう馴染みやすい言葉で張り紙をしたりしている。常に出来る事、出来ない事、出来そうな事を見極め、出来そうな事、出来る事は積極的に行っていただいている。			